

三村先生との思い出

上野 智子

(和歌山大学)

Precious Memories with Prof. Mimura

Tomoko UENO

三村先生、この度はご退職おめでとうございます。縁あって広島大学の修士課程に入学できたことで、三村先生はじめ沢山の素敵な出会いに恵まれました。あれから10年以上経ち、大学という場も当時とは色々変わってしまいましたが、院生時代はあわただしい中にも、沢山のあたたかい交流があったと思います。

私が入学した当時、音楽教育ゼミは三村先生と吉富先生の2人体制でした。ゼミは、縦につながられた長机に音楽教育学専攻の院生がずらりと並び、順番に発表&質疑応答が行われる、というものでした。院生には留学生や現職の先生もいらっやして、発表しなくてもその場にいるだけでドキドキしたのを覚えています。また私は、他大学からの進学者だったので、見ることも聞くこともすべてが新鮮…いいえ、要は知らないことだらけで、先輩や同級生の発表にただただついていくのに必死でした。しかし、その割には生来の不真面目さでしょうか、メモと一緒にしつつ変な落書きを描いてしまい…、三村先生は注意するどころかクスクス笑いながら落書きを指さし、コソッと「それいいね!」と仰ってくれましたね。思考も行動ものんびりな上に、かなり抜けていて、本当に手のかかる学生だったと思いますが、そんな先生の反応に救われることが多々ありました。

博士課程での日々は、常に学会発表と投稿論文に追われていた気がします。学会発表直前ともなれば、夜中までゼミが続くことも。眠気と疲れがピークに達した時に「ちょっと休憩しよう」と言って、先生自らコーヒーを淹れてくださったこと、今でも覚えています。多くのゼミ生が研究職に就けたのも、不眠不休でご指導してくださった三村先生のおかげだと思います。

怒涛の日々でしたが、大所帯の音楽教育ゼミは仲が良く、思い返せば、春はお花見、夏は阿蘇セミナーに海レク、秋は酒祭り、学会発表の帰りにちょっと寄り道…など、実はよく学び・よく遊びだったかもしれません。海レクの帰りに三村先生の宿舎に行き、みんなでご飯を食べたことを覚えていらっやるでしょうか。先生がキッチンに立って、次々とおつまみを作っていくのを横で見ていた私(気が利かないのはもちろん、先生の手際が良くて見ているしかなかったのです)に、「飲みながら料理や家事をしたりするのが一番好きなのよ」と仰っていました。ご退職後には、そんな時間をもてることを願うばかりです。

最後になりましたが、三村先生のご健康と、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。